

第 71 回牛鬼会議 会議録

■日時：令和 4 年 8 月 19 日（金） 18：00～20：00

■場所：宇和島市総合福祉センター 3 階 ハイブリット方式（会場参加・オンライン参加）

■参加者：17 名

□会場

愛媛大学（尾崎真由）、中島農園（中島利昌）、地域支え合いセンター（佐藤猛）、宇和島市社会福祉協議会（松田伸一）、愛媛新聞社南予支社宇和島編集部（阪和舞）宇和島市市民課（東宏和）、宇和島 NPO センター（谷本友子、山口勇喜、岡田雅信、西岡理奈、林 昭子）

□オンライン

吉田町手をつなぐ育成会（山本和美）、一般社団法人宇和島 SDGs 社会教育事業団（霜村一郎）、Clean the coast（西本和弘）、オフィスセイケ（清家正亀）、特定非営利活動法人 U. grandma Japan（折原理恵）宇和島市 NPO 団体 If（薬師神理子、松崎尚美）

■内容

1. 関係団体からの活動報告と予定（別紙活動記録参考）

（1）宇和島市生涯学習センター（パフィオ宇和島）

①海洋ごみ展示

（2）宇和島市活動団体 Clean the coast

①海岸清掃情報共有会議

（3）地域支え合いセンター

①8 月 12 日（金）新潟県関川村災害ボランティアセンターへ土嚢袋 2,000 枚を支援

②重層的支援体制整備事業について

（4）吉田町手をつなぐ育成会

①小学校廃校後の空き教室利活用について

（5）宇和島 NPO センター

①新型コロナウイルス感染症予防対策について

②第 6 回災害ケースマネジメント研修

③第 1 回 NPO 交流会

④砂防ダム見学会

⑤うわじま防災 BOX×子ども食堂 in きさいや広場

⑥お出かけバスツアー「はなはな」

⑦ブラ防さんぽ西条市神戸公民館連合自治会

⑧ぼうさいこくたい 2022

2. その他（牛鬼会議参加者へのお知らせ、協力依頼など）

※別紙、そのほか（イベント等の開催状況）ボランティア等募集案内など

1. 関係団体からの活動報告と予定

◆宇和島市活動団体 Clean the coast (西本)

①海岸清掃情報共有会議

(Clean the coast (西本))

今年5月から開催している。8月16日に第2回を開催した。参加者は参加者は、市役所(生活環境課、市民課)、県漁連、なんよTAC、アポトライ、準パール王子(増田さん)、宇和島NPOセンター。

共有内容は、5月29日にアポトライが海岸清掃を実施して可燃ごみだけで400キロ回収したこと。6月11日には南海放送ラジオがメインでGO-MIX!を開催したこと。可燃ごみだけで110キロ回収したことのほか、6月25日(土)に開催したブルーサンタでは、可燃ごみ500キロのほか産廃ごみも回収した。

また、7月30日(土)に蔦渚で日本財団が熱を加えて圧縮して小さくする機械と粉砕する機械と両方持っていることから機械の展示をした。日本財団の補助を受け、県漁連が購入することになることになるかも知れない。

→(NPOセンター(谷本))

海岸清掃の分野において関係する団体での情報共有会議を始めた。今回、漁協からも参加いただいたことから発展していくことを期待している。NPO団体・市民で協働して活動を進めることができればと思う。

②パフィオ宇和島との連携について

(NPOセンター(谷本))

8月11日(木)に「らんま先生のeco実験ステージ」があり、海ごみの展示もした。8月14日(日)まで展示し、来ていただいた方々にアンケートに答えていただき非常に良かった。回答内容は、「今後の海岸清掃について知りたい、宇和海の現状を知りたい。海洋ゴミのリユースについて知りたい」という回答があった。啓発活動を協働して進めていきたい。

→(Clean the coast(西本))

今後、市役所ロビーでの展示を予定している。

◆地域支え合いセンター(佐藤)

①8月12日(金) 新潟県関川村災害ボランティアセンターへ土嚢袋2,000枚を支援

新潟県を拠点に災害ボランティア活動をしている李仁哲先生が来宇した。8月3日(水)の大雨で新潟、北陸が被災したため、JCから何か社協で支援予定はないかと話があり李先生に連絡したところ土のう袋が不足しているということだった。そのため、JCから1,500枚、市社協が500枚、支援し配分は李先生にお任せした。

→(宇和島市社会福祉協議会(松田))

関川村災害ボランティアセンターのFacebookに土のう袋が届いたことについて写真が投稿されていた。また、保育園の子ども達からの応援メッセージも添えさせていただいた。

②重層的支援体制整備事業について

7月から関わっている方（仮設住宅に住まわれていた方）で、その後、一人暮らしでアパート暮らしをされていた方について、NPO センター山口氏を通じて6月頃から見えないとアパートの隣人から情報が入り訪問した。家の中も大変な状況で入浴もされていない状態で食事も取っていない様子だったため、市保護課、包括支援センター吉田支所の保健師へ繋ぎ早急に対応が必要だったことから病院を受診し体調の確認をもらった。食事を取ることの応急的な支援物資、食材もうわじまグランマさんから提供いただいた。食事を食べていないようで、病院を受診し体調を確認した。

支援物資としてうわじまグランマから頂いたものや支え合いセンターから非常食用アルファ米の支援をした。自身で調理できる状況ではなく、炊事場も使えない状態で手持金もなく銀行に行くことも出来ない様子で生活が難しい状況だったことから行政にお任せしたが、近所の方の手伝いで引き落としができて支払いできた。

また、宅配クック 123 という業者があり、お弁当宅配を月、水、金曜に配達してもらえるようになった。月、水、金曜以外は近所の喫茶店の方がご近所で見守りができる体制ができていたので助かった。喫茶店で宅配クック以外の曜日はそちらにお願いした。

現在は一人での生活は難しいため施設へ入所予定。入所の際に必要な物があるので、NPO センターに探してもらい、布団のセットを提供できる体制ができた。連携して通常の生活ができるようになるまでできた。

→（NPO センター（谷本））

他にも同様のケースが出てくるかも知れないので、近隣でサポートができる方を見つけることでコミュニティ体制を作って行きたい。

→（愛媛大学（尾崎））

周囲の方から解決に繋がっていく事例があるということを知りやすくなることになった。

→（愛媛新聞社南予支社宇和島編集部（阪和舞））

制限はあると思うがこういうことを表で紹介していきたい。

→（吉田町手をつなぐ育成会（山本和美））

障がいのある人が地域で生きるときは、周りの人の優しさ、親切だけでは支えきれないところがある。NPO センターや社協、近隣の方の気にかけていただいたり社会で支える、そういう部分も組み合わせると改めて感じた。地元の支えあいがあったらいい事例だと思う。

→（中島農園（中島利昌））

今回、東北、北陸で被災地が多いが、NPO センターで土嚢袋の支援体制はあるか。

平成 30 年 7 月豪雨の時は我が家 1 件で 1, 200 から 1, 500 枚の土のう袋が必要だった。平成 30 年 7 月豪雨で集まった土のう袋がまだどこかにあると思うので、広報などを利用して集め、社協、NPO センターで支援として送るのはどうか。

→ ((NPO センター (谷本))

災害 NGO 結が被災地への支援に入っているので状況を確認している。お金が一番ということだが、まだ災害の名前が決まっていないのでなかなか募金活動ができない。JA は土のう袋がない様子。土のう袋をこちらで購入して送ることがいいか募金活動をしてお金を送ってその地区で購入して頂くことがいいか、考えた上で支援はしたい。

→中島農園 (中島利昌)

土のう袋の取り合いになる。宇和島でも取り合いだった。メッセージ付の土のう袋は勇気を貰えた。当時、手袋も不足していた。そのことについても検討をしてほしい。

◆吉田町手をつなぐ育成会 (山本和美)

①小学校廃校後の空き教室利活用について

吉田町内の小学校統合が1年半後に迫っている。各団体は水面下で具体的に動いている様子。市社協主催で内子町の見学会に参加した。個人の意見だけでなく、団体としての意見の上げ方など考えられたら良い。

→ (NPO センター (山口))

吉田小学校の跡地の利活用の話し合いについて NPO センターも参加している。地域の PTA、公民館、議員、自治会長、JA えひめ南女性部などが参加している。

→ (吉田町手をつなぐ育成会 (山本和美))

吉田町手をつなぐ育成会として吉田町民、宇和島市民にとっていい方向になるよう意思表示をしていきたい。

→ (オフィスセイケ (清家正亀))

NPO センターの活動場所としての利用、防災のための施設、緊急時の宿泊など、やり方はある。NPO センターとしての意思表示はあったか。

→ (NPO センター (山口))

1 回目なので具体的な話にはなっていない。

→ (NPO センター (谷本))

思いついたことを山口に伝えて頂ければ次回に繋ぐことができる。

→ (中島農園 (中島利昌))

吉田町の統廃合は今までにない大規模なもの。どの小学校も耐震完了している。各地区で活用の話は出てきている。他県では道の駅と宿泊所になっているところもある。

NPO センターの立場として情報を集めて地元で周知してもらえたら良い。以前老朽化している各地区の公民館を小学校へ入れる話があった。公民館が入るのはどうか。地域おこし協力隊など

と協力し、夜間宿泊、管理人などどうか。各校単体での話ではなく、5校まとめて地域づくりの話ができれば。借りる場合のリフォーム代など市の補助金があればいいのではないか。

→ ((NPOセンター (谷本))

各学校の意見をまとめ、その上で話し合う委員会がある。高齢者には、バリアフリーができていない公民館が多いので、公民館が入ることもいいと思う。これを機に移転などの方法もあるか。

◆宇和島 NPO センター

①新型コロナウイルス感染症予防対策について

((NPOセンター (山口))

次回、説明予定。

②第6回災害ケースマネジメント研修 8/21(日)

(NPOセンター (谷本))

災害時に災害ケースマネジメントの支援について分かっている方も多いと思うが、一人ひとりの災害支援という考え方が浸透している。まずは災害ケースマネジメントとは何かという講義とワークショップを開催する。支援者側が知っていることで役に立つ。第2回目も宇和島で開催していただける見込み。ぜひよろしくお願ひしたい。

③第1回 NPO 交流会 9/8(木)

(NPOセンター (山本))

災害支援、防災減災に力を入れているが、中間支援組織として NPO 団体をつなげていく必要性を感じている。宇和島 NPO センター、行政、社協が連携してそれぞれができることをやっていくために、新しく出来た NPO 団体とのつながりが重要。

障害者支援、海岸清掃など、それぞれの NPO 団体が集まって話す場。それぞれの団体がお互いに情報を共有し、できることで助け合う場になればということで交流会を今回初めて開催する。

市 NPO 団体として登録している団体に声掛けをしこれから繋がっていく。中間支援組織の活動がどういったものか知らない方もいる。様々な分野でできること、していただけること、両方を知る必要がある。ぜひ参加いただきたい。オンラインでも開催する。

④砂防ダム見学会 (立間地区 白井谷と奥白井谷) 9/11(日)

(NPOセンター (山本))

市委託事業 (体験型防災プログラム) で実施。本来であれば工事の話は愛媛県。県からの声掛けでもあるが県としては行政主催だと続かないとの意見であり、NPO 主催の防災講座として NPO センターが開催する。御殿内の杉田さんが災害避難の地域連絡網を作成したため例を話してもらいたい。

砂防ダムの工事の説明は世帯主が参加する傾向だがサロンにも社協から声をかけてもらい女性にも参加いただく。実際に地域の方が体験した話も聞く。興味のある方はご参加いただきたい。

→ (中島農園 (中島利昌))

砂防見学会について。玉津地区の場合7月に広報されたが、地権者の反対で計画の半分程度しかできない。柑橘園地の立地条件が良いところが工事範囲に入ってしまうため。大きな被害の場合、広範囲が計画範囲となる。奥白井谷に関しては砂防ダムの計画が実施されるかどうかで園地復旧が遅れた。地権者の反対があるかどうかで住民同士のいさかいの材料にもなる。心情的に難しい事業であることを頭に入れておいていただきたい。

⑤うわじま防災BOX×子ども食堂（in きさいや広場）9/17(土)

（NPO センター（林））

起震車、降雨体験者、土石流 3D シアター、土砂災害の模型パネル展示、タイムラインシート講習、ワークショップで消火体験。コロナ対策として三か所受付を用意。検温、記名の上リストバンドを付けてもらって体験してもらう。バンドが無い方は参加不可。ボランティアも募集 10 名程度。子ども食堂は連絡協議会に委託し 1,000 食配布予定。

→（NPO センター（谷本））

チラシを作成し、市役所等にも配布するとともにデータを共有する。

⑥お出かけバスツアー「はなはな」9/21(水)

（NPO センター（西岡））

6月からNPOセンターに参画。今回、お出かけバスツアーを計画している。南予きずな博と絡めて、こけ玉造りをしに伊方町にバスツアー予定。健康状態も考慮し多くの方に参加いただき、はなはなで食事をするなど楽しい時間を過ごしてもらいたい。

→（NPO センター（谷本））

社協にもお願いをしている。同窓会を仮設入居者を対象に実施したが、今はできないのでそれも兼ねたツアー。毎日つまらないという方もいる。少しでも外にできるきっかけづくりということで企画。休眠預金事業を活用した居場所づくり。興味のある方、声掛けをしてほしい方がいればお願いしたい。大型バスなので定員 40 名。支え合いセンター佐藤管理者と NPO センター山口、林、西岡が運営側で参加。体験をするということで高齢者には楽しんでいただく。きずな博と辛め今回企画した。12月には宇和町の開明学校にも行こうかと思う。雑巾がけも体験できる。

⑦ブラ防さんぽ西条市神戸公民館連合自治会 9/27(火)

（NPO センター（谷本））

今年12月まで開催する。西条市神戸地区の公民館の連合自治会から9/27に予約を貰っている。

⑧ぼうさいこくたい2022（防災国民推進大会：兵庫県明石市）

（NPO センター（林））

出展が決定。10月22日。ワークショップを開催。防災ゼミナールで関わった高校生も参加。福島大学天野先生、愛媛大学前田先生、東京理科大学石橋先生とディスカッションをする。各高校からの発表も予定。セレモニーで生徒にも呼びかけをして集客する。来られることがあればぜひ立ち寄り下さい。当日、YouTube 配信もある。URL を共有するので視聴可能。うわじまグラン

マも同日別の場所で参加。内容は子ども食堂と防災。

→ (特定非営利活動法人 U. grandma Japan (折原理恵))

子ども食堂と防災ということで行う。全国子ども食堂支援センターむすびえからファシリテーターのプロの方に来ていただく。こども食堂連絡協議会で支援いただいている市こども家庭課岡原係長も来てもらう。子ども達の見守り事業と子ども食堂について話しながらワークショップを行う。

2. その他 (牛鬼会議参加者へのお知らせ、協力依頼など)

※別紙、そのほか (イベント等の開催状況) ボランティア等募集案内など

①宇和島市民協働のまちづくり推進に関するアンケートの募集

(宇和島市 (東))

今年度、「市民協働のまちづくり推進指針」の改訂を進めている。指針策定後、10年余り変わってなかった。今回、市民向けアンケートを市ホームページに掲載しているので、市民一人一人として解答頂きたい。また、市NPO団体として登録している団体に向けても同じようなアンケートを実施する予定。

②ボランティア募集

(一般社団法人宇和島SDGs社会教育事業団 (霜村一郎))

商店街で貝殻アートの展示会をしている。今回県内と全国の絵画教室15箇所から作品を送ってもらい展示している。店舗は信用金庫、伊予銀行、珈琲店TAO、御殿町画廊、市民サービスセンター。9月4日まで展示するのでぜひ見に行ってください。その後、9月21日から25日、展示物を小中学校に制作を依頼している。6から7校。きさいや広場展示室で展示予定。10月初旬に作品のコンテストをweb上で行い入賞者の結果発表も行う。牛鬼会議でも経過を報告する。会議参加者で搬出等に参加できる方はよろしくお願ひしたい。

→ ((NPOセンター (山口))

海岸について、Clean the coastの西本さんをお願いしても良いか。

→ (一般社団法人宇和島SDGs社会教育事業団 (霜村一郎))

良い。来年GW期間中にビーチクリーンを補助金をとってやってみたい。それだけでは無く親子づれとシーボーンアート工作教室の企画も考えている。含めて補助金申請したい。開催場所を白浦でできるかどうか検討していきたい。参加者が多い方が発信力も大きくなる。制作した作品が多ければ公共施設での展示、パネル展示で環境情報を発信していく。

SDGs教室を拡げていくことを考えている。開催場所を決めることを考えている。西本さんへ活動範囲は宇和島市内か。ビーチクリーンをするときに工作教室を行うにあたってブルーシートを拡げ漂着ゴミを使った環境アートを作るが、お手伝いをしてくれるスタッフが4から5人必要。スタッフは、牛鬼会議やNPOセンターで関わっていただいている方の中から募っていただけるとありがたい。なお、他地域よりも地元地域の方に協力してもらいたいと考えている。

③FM がいやの新番組

(オフィスセイケ (清家正亀))

お知らせは資料のとおり。FM がいやの新番組が開始された。明確に宇和島と名前を入れている。海外からの反応 (質問) に対して南中生徒と共有。海外では山火事、台風被害など自然災害のほか、身近におきた犯罪 (9.11 テロ)、放火事件なども耳に入ってきた。自然災害だけでなく防災、防犯について学生の皆さんに考えて頂く機会となった。

④他県への支援について

(特定非営利活動法人 U. grandma Japan (折原理恵))

他県の被災に対して、むすびえの関係で福井県の越前市に、支援物資を送った。社協で使っている。8月5日にフードロスになりそうな冷凍食品3,200食をいただいた。子育て世帯200世帯に配布。コロナ感染で来れない世帯も5世帯ほどあった。高齢者世帯で自粛中の世帯もあり、食料を配布しているケースもある。

⑤香川大学との連携について

(中島農園 (中島利昌))

7月6日に香川大学で90分の授業をした。愛媛新聞、南海放送に取材していただいた。避難所運営に携わる女性の運営者について質問があった。玉津地区の場合、自治体等が地区内で6箇所避難所を開設した。男性が支援物資受入、仕分け、配達。聞き取りを女性の運営者がした。女性の視点で大事だったのは生理用品の聞き取り。男性が聞くわけにいかない。女性の運営者がいて助かった。子どものおむつのサイズなど。

講義を聞いてくれた生徒には災害ボランティアの災害後の支援を受け入れてくれるところが少ないという声もあった。

災害ボランティアは住居内のみということでその後の支援をしたいけども受け入れてくれるところが無いので困ったという意見もあった。9月に2泊3日で来訪予定だがコロナで難しいと思っている。宇和島東高校の卒業生が香川大学にいるが被災状況を知らなかった。豪雨災害は一山超えると変わるという災害NGO結の前原代表の話を痛感した。毎年、香川大学での授業は毎年実施する関係性ができた。

→ (宇和島市 NPO 団体 If (薬師神理子、松崎尚美))

子ども食堂で7月に200食を配布した。地域おこしということで7月は3回、8月4回、夜市に参加。玉津柑橘農家の中島さんのジュースを出させていただいた。

災害のことも話していただきながら売っていただいた。生産者が直接販売することで新鮮さが伝わった。皆で地域のことを考えていかないといけない。こどもの遊び場を提供するヨコで販売した。感染対策も気を付けながら開催した。できることがあればしていきたい。ご協力、声掛けをいただけたら手伝いにもいきたい。

→ (中島農園 (中島利昌))

来年度吉田小学校が統廃合される。南海放送に相談したところ、被災地の統廃合ということで

県主催、南海放送後援の事業がある。来年度。海岸清掃を5校集めてやるということも検討。可能であればどうか。計画等も検討する上で説明に南海放送が西本さんに話に行くと思うのでよろしくお願ひしたい。県の部署については未確認。

■次回、第72回牛鬼会議（予定）

日時： 令和4年9月16日（金）18時00分～

場所： 宇和島市総合福祉センター 3階

■本会議録作成者

特定非営利活動法人宇和島NPOセンター 林 昭子